

値が経済にとっても善であることを示す、生きた実例です。

今日の世界で先を越す(出世する)ための唯一の道は、近道をする事。自分自身の利益のために権力を利用し、非倫理的な実践に向かう別の道を探すことだ、と言う人びとがいることを、私は知っています。しかし、彼らは間違っています。

私たちはみな、人間的価値を支える闘いにおいて、用心深くなければなりません。誰も完璧ではないのです。私は、協同組合が、私たちのあらゆる社会的・経済的病に効く、ある種の新しい妙薬であると言いたいではありません。

しかしまた、価値に主導される事業体を持つ、巨大な潜在的可能性を安売りしないようにしましょう。人びとの必要に応える、協同組合的な組織方法にとっての市場は、成長し続けています。私は、みなさんがその機会を

つかむことを、そしてILOが力になるのなら、私たちもその機会をつかむことを、確信しています。

煎じ詰めてみれば、世界で最大の挑戦課題は、数世代を通じてこだましてきたものと同じのものです。どのようにして、人びとが共に考え、共に活動し、共に働き、共有する一連の価値と、共有する一連の関心、そして私たちが直面する共通の未来についての共有する理解を通じて世界を見ると同時に、多様性を祝福するよう、人びとを奨励することができるか。

みなさんは、できる限り最良の方法で、そうした挑戦課題に应付しています。言葉によってではなく、行動を通じて。みなさんは、より良い世界と一つのコミュニティを同時に建設しています。私はみなさんと、みなさんがしていることを信じています。共に協同し続けようではありませんか。

## 「協同組合のルネッサンスが始まった」

ICA 総会



ロベルト・ロドリゲス(前ICA会長)

訳 菅野正純(日本労協連)

ブラジルの新政府



ルラ大統領政権の下で農業大臣となったロドリゲス氏は、ICAオスロ総会での発言に当たって、協同組合運動の歴史を振り返った。協同の思想は、そもそもの初めから、共通の敵

から自分たちを守るために、人類を結束させてきた思想である。産業革命と共に、多くの人々が社会的排除に直面したが、ロッヂデールで創り出された思想は、社会的排除から人々を防衛するための企てであり、その企ては成功した。

長い間、協同組合は、資本主義と共産主義の間の第三の道だった。共産主義崩壊以前の状況を、ロドリゲスは、兩岸の間を流れる川

という絵を使って表した。

### 《完全なパートナーシップ》

「われわれが生きている時代は、産業革命の時代と同様に、多くの人々が排除を経験している。社会的排除、富の不平等な分配と失業は、民主主義と平和の双方に対する深刻な脅威だ。これらの問題こそ、協同の新たな挑戦課題であり、第二の協同の波の中に私は新しい象徴を見る」

「私たちは、市場と政府の間の橋でなければならない。今日の政府は、大きな挑戦課題を抱えている。就労の保障、食の安全、環境保護、万人にとっての正義、平等な機会だ。それは協同組合が目指しているのと同じものだ。(この点から)完全なパートナーシップ

を形成することが可能だと私は考える」とロベルト・ロドリゲスは語った。

彼の結論は、私たちは協同組合のルネッサンスを必要としているし、実際にそれが起こるだろう、ということだった。「ロッチデールから始まった思想は、150年以上に渡って、その実践的な使用方法を示してきた。8億人の人びとが組合員であり、家族を含めれば、この世界に住んでいる人びとの約40%が組合員なのだ。私たちの思想と実践を今日の社会に活かすという、かけがえのない可能性が私たちにはある」。ロベルト・ロドリゲス大臣は、彼の大統領の言葉で発言を締めくくった。

「私がブラジルで協同組合共和国を組織することを手伝ってほしい」

## 「貧困削減と事業開発の道具としての協同組合」(抜粋)

ICA 総会



ヒルデ・フラヒョルド・ヨンソン  
(ノルウェー政府国際開発大臣)  
訳 菅野正純(日本労協連)

ジャマイカの貧しい人の声を紹介させて下さい。「貧困は、牢獄の中で暮らし、奴隷の境遇の中に生き、自由になるのを待ち続けることだ」

私が今日述べたいビジョンは、人びとを主人公に高め、彼らがあらゆる場面で自分たちと家族に配慮できるようにすることを通じて、人々を解放することです。

「協同組合組織は、われらの時代に発生した最良で貴重な何ものかである」と、レオ・トルストイは、すでに1909年に述べています。

協同組合運動は、普通の人びとにとって重要なものであったし、今もそうあり続けています。協同組合は、経済発展に重要な貢献をしただけでなく、民主主義と良い政府および統治の振興における手段であり続けてきました。そしてノルウェーは、過去100年以上

